

- 2013/12/2 時間 12月に突入、昨年の今頃を思い出し、ぎよっとする。こんなにも一年が早いなんて。時間の流れには気をとめている方だけど、それでも及ばない。いつも、してやられる。時間とは不思議なもんだと思う羽目になる。かといって残念な気持ちにはならない。“ちゃんとして来なさいよ”と、手は差しのばないが、半歩先を伴走していそうで。
- 2013/12/4 広場  やはり人間、広々とした所に集まる。大阪駅前、グランフロントの広場にクリスマスのオブジェが登場、これを高くしなかったのは正解。広場から西の空がひらけ、木々のイルミネーションが、日の入りしきらない瑠璃色の夕空にシックに輝く。駅の方からふらりふらりを人々がやってくる。大階段からこの景観を眺め、人工の川辺を歩く。『広場の孤独』ならぬ、広場の賑わい。おだやかに晴れた昨夕の一コマ。
- 2013/12/7 夕刊トップ さすがに日経の夕刊も昨日のトップはマンデラ氏の訃報だった。記事を読みながら思う、人間世界はいつも究極のところまで、必ずこういう人を授かる。世を変える人がでてくる。それまでの代償は大きすぎるが。
- 2013/12/10 黒から赤へ 昨夕グランフロントの庭を通ったら、やけに視界がひらけている。葉の落ちた木々がふえていた。同時に気づいたのが足元。地面に設置された禁煙の注意板、いつのまにか真っ赤な表面に変わっていた。景観に配慮してられない状況だったのか、オープン当初はなかった池の柵や入水禁止の衝立、路肩の石ころをおさえる網、そして自転車侵入禁止の縦看板。管理する側もなかなかのジレンマ。
- 2013/12/12 待機 いっきに冬本番。風が強く冷え込んでいる。それでも晴れているから、明るい陽光を目に、キリリとした風を顔面に、自然と内面から意気があがる。これもまた自然のなせるワザ。大阪の日入りも昨日から遅くなり始めた。十日後は冬至。日の出が転じるのは一ヵ月後。春が袖で待機。
- 2013/12/16 案内葉書 郵便受けを開けると、葉書が届いていた。テレビの番組制作に携わる友人の夫。演出番組の放映が決まるたびに案内が届く。東京在住で会うこともほとんどないが、マメに送ってくれる。独立して東京へ行くという夫に二つ返事についていったのには感心した。たしかもう20年にはなるはず。地道な努力が実を結んでいる感。

2013/12/18 手づくりの便り 新旧年のつなぎ目、この時期の恒例、今年の総まとめと来年への思索。その合間に山形から届いた便り。落葉の絵柄かと思ったら、ちがった。手づくりの葉書だった。文面と落葉の上に薄い和紙がはってある。おそらく年齢は70代半ば、畑仕事をしながら一人暮らしを楽しんでいると書いてある。交流のきっかけは7年前の女性起業塾。起業への思いを尋ねて返ってきた答に目を見張った。尋ねなければ知ることのできなかった社会へのまなざし、若い精神。見た目の高齢に引きづられてはダメだと反省したものだった。春には例年、自宅を公開し、甲冑や雛人形をみてもらっていると言う。その準備もまたたのしいといつかの葉書に書いてあった。人生の先輩に敬服。

2013/12/21 明日は冬至



いよいよ明日は冬至。それよりクリスマスでしょ、と言われそうだが、個人的には冬至に軍配。新しい春への入口だと思う方が悦ばしい。ラジオから蠟梅の話題も聞えてきた。街のそこかしこのイルミネーションが急に、録画撮りのニュース映像のように見える。12月も残り十日。

2013/12/24 協調

定番のクリスマスソングがラジオから流れる。特に山下達郎の歌ははげせない「アルファモーニング」でもかかった。この二日、じっくりフィギュアスケートの試合を観た。女子、男子ともに見入った。けっして復元できないその場かぎりの演技。磨き、研ぎ澄ます心身の躍動に胸があつくなった。観客が協調的で場の雰囲気そこなわず、演技者を温かく見守る感じも目をひいた。だからこそ一緒にあってじっとテレビを見ていられたのかもしれない。

2013/12/26 本のカバー

クリスマスも済んで、仕事納めまでも数日。学校も冬休みに入り、電車も少し空いている。そんな車内でみかけた読書する君。目についたのは本のカバー。書店のものでもなく、専用のもでもなく、カレンダーの裏表紙のよう。そういえば、人のものはあまり見かけたことがない。へえー、誰から教わったのかしら。読書家だった恩師とその門下生たちを思い出す。みな自分でカバーしていた。それに倣って、久しい。

2013/12/28 いざ、2014年へ



「4月のことがもう3年も前のことのように」。今年をふりかえり、来年を計る経営者がもらした一言。考えないといけないこともたくさんあるし、やるべきこともたくさんある。孤独な自分とのたたかい。とって代われるわけではないが、一助になる働きかけをする。それに磨きをかけていかなければとあらためて感じた今日午前中の会議。年内の予定はこれで終わった。今年の後、始まりにかえる。いざ、2014年へ。